

令和5年度に係る自己点検・評価の報告書

令和6年6月28日

部局名：グローバル・ディスカバリー・プログラム

1. はじめに

グローバル・ディスカバリー・プログラムでは、令和4年度の自己点検・評価に引き続き、令和6年4月から6月にかけて令和5年度教育課程・学生支援・学生受入を対象とする自己点検・評価を実施し、その結果に基づいて本報告書を作成した。

2. 実施体制・手順

教育課程については教務委員長、学生支援については学生支援委員長、学生受入については入試委員長がそれぞれの委員会で自己点検・評価を行い、教員会議にて審議を行い自己点検・評価を行った。

3. 総括

グローバル・ディスカバリー・プログラムでの教育課程・学生支援・学生受入の実施体制については概ね適正に運営されているが、以下のような「注意が必要」とした事項が確認された。

【注意が必要とした事項】

＜教育課程＞

- 1-2-35 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則して適正な状況にあるか。
- 1-2-39 就職先等からの意見聴取の結果において、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則した学修成果が得られていることが確認できるか。
- 1-2-41 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。

＜学生支援＞

- 5-1-12 上記の学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。

＜学生受入＞

- 6-2-4 実入学者数が、入学定員を大幅に超える（1.3倍以上）、又は大幅に下回る（0.7倍以下）状況になっていないか。（実施対象年度の4月入学者及び10月入学者）
- 6-2-6 学生の受入れ全体の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

特になし

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

特になし

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

特になし

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

＜教育課程＞

- 1-2-35 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則して適正な状況にあるか。
→卒業に必要な単位を確認しやすくするため、「卒業要件単位確認用紙」をわかりやすく更新し、AA（アカデミックアドバイザー）及び学生（特に卒業予定者）に周知を行い、卒業に必要な単位の履修漏れをなくすように努める。また、Target 2025のカリキュラム改革に合わせてGDPの卒業要件を変更する際に、確認のしやすさも考慮する。
- 1-2-39 就職先等からの意見聴取の結果において、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則した学修成果が得られていることが確認できるか。
→「学位授与の方針」に則した学修成果が得られているか確認できるよう、教務委員会や学生支援委員会と連携して、卒業生等を通じて卒業生の就職先等と情報交換できる仕組みについて検討を行い、教員会議において学修成果が得られているか確認を行う予定である。
- 1-2-41 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
→2022年度にGDP将来構想検討委員会を設置されたことを機に、ディスカバリー専任教員によりカリキュラムの改善及び卒業生輩出に伴う教育効果や進路等の分析と検証を行った。将来構想の検討は、2023年度に設置されたGDP改革検討委員会が継続して行っている。

<学生支援>

- 5-1-12 上記の学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
→卒業生への意見聴取の結果に基づき、状況を把握し、改善・向上に向けた取り組みを行う。

<学生受入>

- 6-2-4 実入学者数が、入学定員を大幅に超える（1.3倍以上）、又は大幅に下回る（0.7倍以下）状況になっていないか。（実施対象年度の4月入学者及び10月入学者）
→理系に特化した理系入試説明会開催するなど、理系の志願倍率の改善に向けた取り組みを実施している。また、令和5年度からGDP改革検討委員会を設置し、さらなる入試改革を検討しているところである。
- 6-2-6 学生の受入れ全体の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
→入試委員会において、ディスカバリー入試の振り返りとして、教員や受験生からアンケート等で聞き取りを行い、分析・検証を行っている。長期的には、GDP改革検討委員会を中心に、GDPの体制やカリキュラム等の改革も含め、入試改革について検討中である。

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの
特になし